

グローバルな視点に立った 高度な公共政策のプロフェッショナル、研究人材の育成を目指して

今日の世界は、グローバル化により、地球規模の相互依存が深化していく真っ只中にあります。グローバル化は経済発展による豊かさをもたらす一方で、生き残りをかけた競争的な過程において世界の不均等な発展ももたらしており、「世界が1つにつながる」という中立的な現象では必ずしもありません。貧困、格差、環境破壊、人権侵害といった一国だけでは解決できないグローバル・イシュー（地球規模の、国境を越える課題）の顕在化は、そのようなグローバル化の負の側面として捉えることができます。国家の統治能力が相対的に低下していく中で、これらの課題を解決するためには、各国政府、国際機関、NGO、民間企業、市民社会といった異なるアクター間の協調による社会運営（＝ガバナンス）が求められています。このような喫緊の人材育成ニーズに対応し、グローバル・ガバナンス研究科

ではグローバル・イシューの解決に貢献できる高度な公共政策のプロフェッショナル育成を目指して、英語による博士後期課程（ドクター・コース）を提供しています。

グローバル・ガバナンス研究科では、「公共政策」「国際開発政策」「地域マネジメント」の3つのプログラムを中心に、行財政改革、分権化、貧困削減、持続的開発、開発経済協力、人権・民主化、地域開発、市民参加、危機管理といった世界が直面している課題に直結した重要かつ喫緊のテーマを取り扱っています。これら3つのプログラムを見てもわかるように、グローバル・ガバナンス研究科は既存の専門分野を横断的に関連付けていく学際的なアプローチを取っています。それによって、公共政策の研究者のみならず、政府、国際機関、民間、非営利セクターで働く高度なプロフェッショナル、研究人材の育成を目指している点が大きな特徴です。

グローバル・ガバナンス研究科の 人材養成その他教育研究上の目的

グローバル化の進展とともに、貧困、環境問題、人権・民主化等、一国だけでは対応できない地球規模の諸問題（グローバル・イシュー）に対して、より高度な専門教育を展開することが不可欠となっている。このような背景のもと、グローバル・ガバナンス研究科は、研究者として自立して研究活動を行い得る能力を養うことはもとより、政策立案者・遂行者、国際機関・国際NGOの専門家等、国際社会の多様な場においても、課題解決と新たな価値の創造に貢献し得る人材を育成することを目的とする。

グローバル・ガバナンス専攻の 人材養成その他教育研究上の目的

グローバル・ガバナンス専攻は、「公共政策」、「国際開発政策」及び「地域マネジメント」の3つのプログラムを提供し、グローバルな公共政策の視点を持ち、地球環境問題の解決、世界的な貧富の格差の是正、人権の保障、民主化推進、地域の活性化、危機管理等の政策目標に資する戦略についての研究能力を有する人材養成を目指す。

研究科の特徴

1 3つのプログラムの提供

- 公共政策プログラム — Public Policy Program
- 国際開発政策プログラム — International Development Policy Program
- 地域マネジメントプログラム — Community Management Program

2 英語教育によるプログラム

3 研究と実践の融合



入学者受入方針

Admission Policy

グローバル・ガバナンス研究科は、地球規模の諸問題（グローバル・イシュー）に関し、国際的に十分通用できる研究者ならびに行政機関、国際機関、国際NGO等、国際社会や地域社会の多様な場で貢献できる専門家の養成を目指しています。このため、本研究科では主に次のような資質や意欲を持つ学生を積極的に受け入れます。

- (1) 公共政策、国際開発政策、地域マネジメントのいずれかの分野において十分な専門的素養を持ち、第一線の研究者・専門家として活動するための知識と能力を身に付ける意欲を持つ者。
- (2) 研究を通じてグローバル・イシューの課題解決と国際社会の発展に寄与する使命感を有する者。

以上の入学者受入方針に基づき、一般入学試験を実施し、入学者選抜を行います。

なお、修得しておくべき知識等の内容・水準を以下のとおり求めます。

- (1) 公共政策、国際開発政策、地域マネジメントのいずれかの分野において十分な専門的素養を持ち、自分の専門に関する研究を推進できる能力を修得していること。
- (2) 学術、研究の高度化とグローバル化が進展する現代社会に対応できるような幅広い視野、分析手法を備え、自分の専門分野に生かす力を修得していること。
- (3) 英語を共通語として研究を遂行できる能力を備えていること。



グローバル・ガバナンス研究科 Web ページ

明治大学大学院 グローバル・ガバナンス研究科

事務取扱時間（グローバルフロント5F）

平日▶09:00～11:30/12:30～18:00 土曜日▶09:00～12:30 電話▶03-3296-4527 Mail▶gsgg@meiji.ac.jp
※休業期間やイベント等により事務取扱時間は変更となる場合があります。

カリキュラム概要

Thesis Writing A～F（研究論文指導）

公共政策プログラム – Public Policy Program

行政、財政、公共経営、都市政策などの分野を中心とした科目を配置

国際開発政策プログラム – International Development Policy Program

国際開発政策、開発経済協力、環境政策、グローバル社会などの分野を中心とした科目を配置

地域マネジメントプログラム – Community Management Program

社会開発、コミュニティ開発、地域開発、NGO/NPO 運営、危機管理などの分野を中心とした科目を配置

修了要件

1. 学位論文作成のため、指導教員による必要な研究指導を受けなければならない。
2. Thesis Writing A～F（各2単位）合計12単位を必修とする。
3. 上記12単位に加え、指導教員が必要と認める選択必修科目のうちから、4単位以上を修得しなければならない。
4. 指導教員が研究指導上必要と認めた場合には、他研究科（専門職学位課程を含む。）の授業科目及び研究科間共通科目を履修することができる。

研究科間共通科目は **P.188** を参照してください。



設置科目

Public Policy Program

Governance Studies

Intergovernmental Relations

Public Finance and Social Welfare

Governance and Financial Management

Public Management Strategy

Management of Public Institutes

Urban Spatial Policy

Governance and Democracy

Local Governance

Local Government Functions

E-government and Public Service

E-government and Participation

International Development Policy Program

Governance of Global Economy

Economic Development Policy Analysis

Environmental Policy

Environment and Development

Global Governance - Theory

Global Governance - Institutions

Community Management Program

Social Development Policy

Social Development Theory

NGO/NPO Policy

NGO/NPO Management

National Security and Intelligence

Terrorism and Counterterrorism

Research Supervision

Thesis Writing A～F

※2024年4月1日時点のものです。今後変更や見直しを行う場合があります。

教育課程編成・実施方針

Curriculum Policy

グローバル・ガバナンス研究科では、地球規模の諸問題（グローバル・イシュー）に関連する各専門分野のディシプリンを高めるとともに、政府、民間企業並びに市民社会がどのように社会運営に携わるべきかといった「ガバナンス」の視点を踏まえつつ、以下の特色を有する3つのプログラムを提供します。

- (1) 公共政策プログラム：公共政策に関する課題発掘・立案・実施・評価にいたる一連の過程に基づく科目編成
- (2) 国際開発政策プログラム：国際開発・環境に関する学問領域から構成され、グローバル・イシューである持続的開発や貧困問題を、社会システムの諸側面から捉える科目編成
- (3) 地域マネジメントプログラム：より地域に密着したローカルな視点でグローバル・イシューを捉え、その解決に向けての政策形成・実施・評価のプロセスに基づく科目編成

このようなプログラムのもと、学生は、海外経験豊富な指導教員を中心とする教育スタッフからの研究指導と国際的な学術研究の交流を通して、第一線で国際的に活躍するための知識と能力を身に付けることができます。

学位授与方針

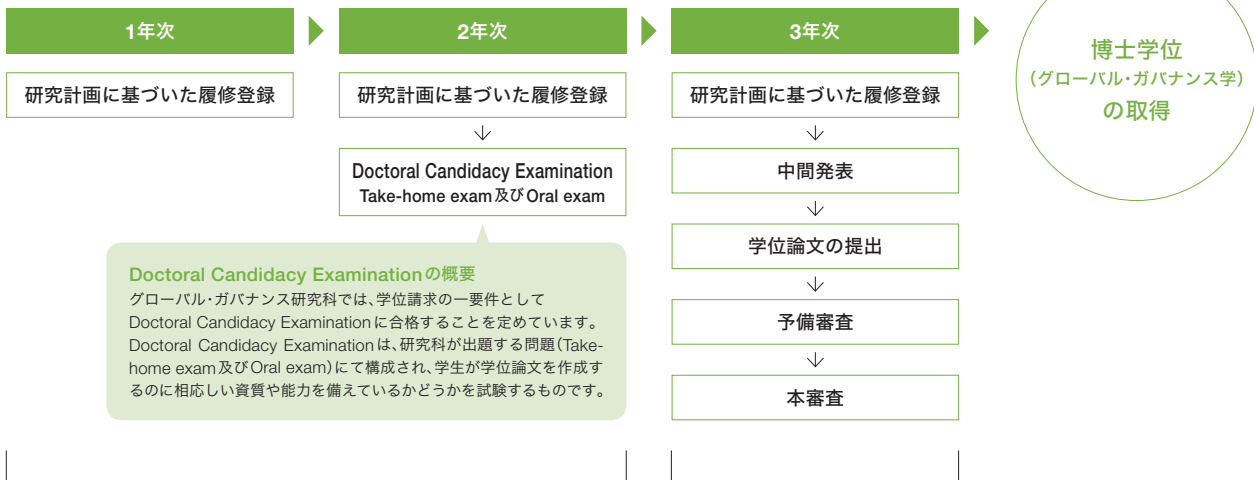
Diploma Policy

グローバル・ガバナンス研究科では、本研究科の定める修了要件を充たし、かつ、学業成績ならびに学位論文から、以下に示す資質や能力を備えたと認められる者に対し博士（グローバル・ガバナンス学）の学位を授与します。

- (1) 研究者・教育者として大学・研究機関において自立して革新的かつ創造的な研究・教育活動を行いうる資質・能力。
- (2) 行政機関、国際機関、国際NGO等において高度に専門的な業務に従事しうる資質・能力。
- (3) グローバルな公共政策の視点を持ち、地球環境問題の解決、世界的な貧富の格差の縮小、人権の保障、民主化推進などの政策目標に資する戦略についての研究能力。

グローバル・ガバナンス研究科における博士後期課程について

博士学位取得までの流れ（モデルケース）



必要な研究業績

博士学位請求論文提出時までに、最低3本の学術論文が掲載されていること及び、国際学会で1回以上発表していること

博士学位請求論文の作成



詳細は、グローバルガバナンス研究科 カリキュラム体系図のページをご参照ください。
https://www.meiji.ac.jp/dai_in/gsgg/curriculum/chart.html

修了生からのメッセージ

博士後期課程

Doctoral Program



Shaikh Jobayed Hossain

Shaikh Jobayed Hossain
グローバル・ガバナンス専攻
2021年9月修了

Replicating Global Governance, Reflecting in Local Governance

Being a central government civil servant of Bangladesh, one of my duties is to provide policy guidance to the government, considering the global shift in policy dynamics. Improving the local governance through policy support is important to deliver the governmental services to the people especially in rural areas of Bangladesh. My research focuses to the citizens and their opinion in local government policy decisions. I started to think off citizen's perspective, when I started to work with the marginalized people during the beginning of my civil service. Through learning by doing from my civil service career, I acquired some knack on this subject matter, and I was seeking an opportunity of studying on it in some scholarly institutions developed countries. Accordingly, I got a chance to study Master of Public Policy in Governance Study in Meiji University, where I learned the technique of academic research and wrote a thesis as a part of the course and it inspire me to study further and pursue a doctoral program in the same university.

Meiji University's Graduate School of Global Governance, is an interdisciplinary academic institution having world class academicians and researchers, who are dedicatedly disseminating knowledge across the world. Professors of different disciplines have emerged into one hub and they have been facilitating students of various research fields. In such an international academic environment, I was fortunate to study many interdisciplinary courses including research methodologies, econometrics and statistical analysis, which are basic tools for academic research. Moreover, the school has a special training

program and guidance on writing academic research. Courses on different contemporary issues focusing to global governance and public policy framework have given a special valuation to the entire curriculum. As my empirical research was focused to local governance, I utilized the discourse of global governance in financial policy planning of local governance through participation of citizens in Bangladesh perspective. Therefore, pursuing a PhD in Global Governance with the supervision of such competent professors is a matter of heightening the academic position in global research arena.

Q 師事していた教員は？

A 兼村 高史 教授
(発行時点で既に退職しています)
木村 俊介 教授
源 由理子 教授

Although studying Ph.D. is a one-man journey to an unprecedented acquirement, I received extraordinary support from the professors including psychological inspiration to carry on such hard steps of the entire span of the course. I am grateful to my first supervisor Professor Takafumi Kanemura, who has inspired me to do research on the very contemporary issue of global governance, the participatory budgeting in local government policy-making. Then I was supervised by Professor Shunsuke Kimura, who is an expert on local governance, has actively guided me to keep my research on track for performing outstandingly. His thorough review through his extraordinary care has given an extra pace to facilitate my research work and I was able to complete my PhD timely with distinction. I was privileged to get Professor Yuriko Minamoto as my sub-supervisor, who contains knowledge of complete research. She helped me tremendously in generating new thoughts and ideas of empirical research with appropriate statistical analysis.

教員情報 P.097・098

教員一覧

1 公共政策

※2024年4月1日時点のものです。今後変更や見直しを行う場合があります。

出雲 明子
IZUMO Akiko

博士(学術) 教授
研究分野 **Public Administration, Civil Service System**



【最終学歴】国際基督教大学大学院 【担当授業科目】 Governance Studies, Intergovernmental Relations 【研究テーマ】 Public Personnel Management, Political-Administrative Relationships 【主な著書・論文】『公務員制度改革と政治主導』(単著・東海大学出版部・2014年) / 『はじめての行政学』(共著・有斐閣・2016年) / "Labor Relations and Collective Bargaining in the Japanese Public Service" (Global Encyclopedia of Public Administration, Public Policy and Governance, Springer, 2017)

田中 秀明
TANAKA Hideaki

博士(政策研究) 教授
研究分野 **Public Finance, Public Governance, Social Welfare**



【最終学歴】東京工業大学大学院、ロンドン・スクール・オブ・エコノミクス大学院 【担当授業科目】 Public Finance and Social Welfare, Governance and Financial Management 【研究テーマ】 Social Welfare Policy, Higher Education, Budgeting and Accounting, Public Sector Reform and Governance 【主な著書・論文】『新しい国民皆保険構想』(単著・慶應大学出版会・2023年) / 『人口動態変化と財政・社会保障の制度設計』(共著・日本評論社・2021年) / The Democratic Party of Japan in Power(共著・Routledge・2016年) / Policy Analysis in Japan(共著・Policy Press・2015年)

西出 順郎
NISHIDE Junro

博士(公共経営) 教授
研究分野 **Policy Evaluation Public Management**



【最終学歴】早稲田大学大学院 【担当授業科目】 Public Management Strategy, Management of Public Institutes 【研究テーマ】 Empirical Analysis on Effectiveness of Policy Evaluation System 【主な著書・論文】『自治体評価を振り返る：活かさず殺さずの20年』(単著・日本評価研究第16巻第1号, pp.17-30・2016年) / 『政策評価制度の実効性に関する実証的考察』(単著・年報行政研究第51号, pp.138-156・2016年) / 『災害ボランティア活動の実際』(共著・『震災後の自治体ガバナンス』所収, 東洋経済新報社・2015年)

松浦 正浩
MATSUURA Masahiro

Ph.D.(都市地域計画) 教授
研究分野 **Public Policy, Urban and Environmental Policy**



【最終学歴】マサチューセッツ工科大学 【担当授業科目】 Urban Spatial Policy, Governance and Democracy 【研究テーマ】 Consensus Building, Negotiation 【主な著書・論文】 "Joint Fact Finding in Urban Planning and Environmental Disputes" (編著・Routledge/Earthscan・2016年) / "Localizing Public Dispute Resolution in Japan" (単著・VDM-Verlag・2008年) / Using Assisted Negotiation to Settle Land Use Disputes: A Guidebook for Public Officials(共著・Lincoln Institute of Land Policy・1999年)

湯浅 壱道
YUASA Harumichi

教授
研究分野 **Information Law and E-Government Study**



【最終学歴】青山学院大学大学院 【担当授業科目】 E-government and Public Service, E-government and Participation 【研究テーマ】 Protection of Privacy and Personal Information, E-Voting Law, Cyber Security Law 【主な著書・論文】『電子化社会の政治と制度』(単著・オプアワーズ・2006年) / 『被災地から考える日本の選挙』(共著・東北大学出版会・2013年) / 『AIと社会と法』(共著・有斐閣・2020年) / 『民事訴訟のIT化を実現するシステムとセキュリティ』(単著・ジュリスト2020年12月号)

木村 俊介
KIMURA Shunsuke

博士(法学) 教授
研究分野 **Inter-governmental Relationship, Local Administration, Local Finance**



【最終学歴】一橋大学博士(法学)、米国コーネル法科大学院 【担当授業科目】 Local Governance, Local Government Functions 【研究テーマ】 Inter-governmental Relationship, Inter-municipal cooperation, Local Administration System 【主な著書・論文】『Regional Administration in Japan』Routledge, 2017 / 'Sustainable City Policy in Japan I・II', *Meiji Social Science Bulletin*, 2020 / 'Regional Waste Management - Inter-municipal Cooperation and Public and Private Partnership', *ERIA*, 2020.

2 国際開発政策

※2024年4月1日時点のものです。今後変更や見直しを行う場合があります。

加藤 竜太
KATO Ryuta Ray

Ph.D.(経済学) 教授
研究分野 **Public Economics, Macroeconomics**



【最終学歴】エセックス大学大学院 【担当授業科目】 Governance of Global Economy, Economic Development Policy Analysis 【研究テーマ】 Population Aging, Tax Policy 【主な著書・論文】 "The Future Prospect of the Long-term Care Insurance in Japan", *Japan and the World Economy*, Vol. 47, pp 1 - 17, September 2018 / "International Remittances and Brain Drain in Ghana," (共著), *Journal of Economics and Political Economy*, Vol. 3 (2), pp. 211 - 241, June 2016

辻 昌美
TSUJI Masami

博士(公共政策学) 特任教授
研究分野 **Environmental Governance, Safeguard Policy**



【最終学歴】法政大学大学院 【担当授業科目】 Environmental Policy, Environment and Development 【研究テーマ】 Safeguard policies in international financing institutions / Environmental impact assessment in developing countries 【主な著書・論文】 "Compliance with Environmental Safeguard Policy - Comparative Analysis of Projects Financed by Asian Development Bank," *International Journal of Environmental Science and Development*, 2017

笹岡 雄一
SASAOKA Yuichi

学術博士 教授
研究分野 **Global Society Studies**



【最終学歴】早稲田大学大学院 【担当授業科目】 Global Governance - Theory, Global Governance - Institutions 【研究テーマ】 Global Governance, Comparative Regionalism 【主な著書・論文】 Perspectives on the State Borders in Globalized Africa (eds.) Routledge 2022 / China, Japan and Global Governance: Contested Ideas and Regimes, *Social Science Research Network* 2018

3 地域マネジメント

※2024年4月1日時点のものです。今後変更や見直しを行う場合があります。

源 由理子
MINAMOTO Yuriko

博士(学術)
教授

研究
分野 **Social Development,
Evaluation Research**



【最終学歴】東京工業大学大学院 【担当授業科目】Social Development Policy, Social Development Theory 【研究テーマ】Evaluation Research, Social Development 【主な著書・論文】『実践家参画型エンパワメント評価の理論と方法』(共編著・日本評論社・2019年) / Applicability of Empowerment Evaluation Approach in Community Program (sole-authored, *Japan Journal of Evaluation Studies*, 10(2), pp.1-13, 2010) / Social capital and livelihood recovery (sole-authored, *Disaster Prevention and Management*, 19(5), pp.548-564, 2010)

長畑 誠
NAGAHATA Makoto

教授

研究
分野 **NGO/NPO Policy,
NGO/NPO Management**



【最終学歴】上智大学大学院 【担当授業科目】NGO/NPO Policy, NGO/NPO Management 【研究テーマ】Non-profit Organization, Community Development 【主な著書・論文】『国境をこえた地域づくり』(共著・新評論, pp.1-228, pp.163-178) 『地域づくりの現場は国境をこえる』(2012年) / 『進化する国際協力NPO』(共著・明石書店, pp.1-379 pp.78-118・2006年) / "A Guide to Facilitative Action for Community in Transition (FACT) Method ~Theory and skill for community-based development~" (単著・JICA Yokohama, July 2013)

小林 良樹
KOBAYASHI Yoshiki

博士(学術)
特任教授

研究
分野 **International Relations, National
Security, Criminal Justice Policy**



【最終学歴】早稲田大学大学院 【担当授業科目】National Security and Intelligence, Terrorism and Counterterrorism 【研究テーマ】Terrorism, Intelligence, Public Safety Policy 【主な著書・論文】『インテリジェンスの基礎理論 第二版』(単著・立花書房・2014年) / 『テロリズムとは何か—恐怖—を読み解くリテラシー』(単著・慶應義塾大学出版会・2020年) / "Assessing Reform of the Japanese Intelligence Community," *International Journal of Intelligence and Counterintelligence* 28(4), 2015, pp. 717-733.